



DISCLOSURE 2019

## 発行にあたって

沖縄県労働金庫 理事長

高良 恵一



日頃より沖縄ろうきんをご愛顧いただき、誠にありがとうございます。

今年度も、当金庫の理念や諸方針、経営状況について、多くのみなさまに知っていただくため、「2019ディスクロージャー誌 沖縄ろうきんの現況」を発行いたしました。ご覧いただければ幸いです。

2018年度、沖縄県労働金庫は、個人融資・預金ともに大きく実績を伸ばし、15期ぶりに増収増益を実現するとともに、「ろうきん 全労済 働く仲間のゆめ・みらい基金」に代表される地域貢献活動にも、一定の役割が果たせたものと認識しています。多くのみなさまのご理解とご協力の賜物であり敬意とともに感謝を申し上げます。

近年、世界のいたるところで貧困・児童労働・環境破壊や汚染等、深刻な社会問題が顕在化しています。

この全地球的な課題に対して、「地球上の誰一人取り残さない」とするSDGs(持続可能な開発目標)ゴール目標の達成実現に向けて、広範な課題に統合的に取り組むことが必要となります。

全国労働金庫協会では、2019年3月に「ろうきんSDGs行動指針」を策定し、ろうきん業態で取り組んでいくことを確認しました。

「ろうきんの理念」の実践に加え、メンバーシップを超えた福祉金融機関としての役割を発揮していくことが、まさに、SDGsに掲げられたゴール(目標)の一翼を担うことになると確信するものです。

本取り組みを進めるにあたっては、ろうきんの本来業務である「金融」をはじめ、「福祉・教育・環境・文化」や自然災害被害からの復旧・復興課題なども含め、社会的課題に対する情報収集のためのアンテナを高くかけるとともにすべての働く人とその大切な人に寄り添う金融サービス・商品・制度等の取り組みを不断に進めていきます。

また、子どもの貧困問題の改善に向けて取り組んでいる「ろうきん 全労済 働く仲間のゆめ・みらい基金」については、基金財源確保の中心をなす「O150 ゆめ・みらい運動」に加え、会員組織、推進委員会、ろうきん窓口における個人や団体寄付が多く寄せられており、より力強い取り組みになりうるものと期待はますます膨らんでいるところです。

金融機関を取り巻く環境は、少子高齢化、雇用形態の多様化に起因する会員の減少や未組織労働者、パート・有期契約労働者の増加問題等に加え、情報技術の進展によるキャッシュレス化やスマートフォンアプリの普及等、著しい技術変化にも直面しており、引き続き厳しさは増してくることとなります。

私たち役職員一同は、会員やご利用者の負託に応えるべく、事業目標の必達、事務の堅確化、時代の変化への迅速な対応などチャレンジ精神を持って取り組んで参る所存です。今後とも変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

2019年7月